 <p>学力特集号</p> <h1 style="font-size: 2em;">日明小だより</h1>	<p>北九州市立日明小学校 文責 校長 阿多博孝</p>
--	----------------------------------

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

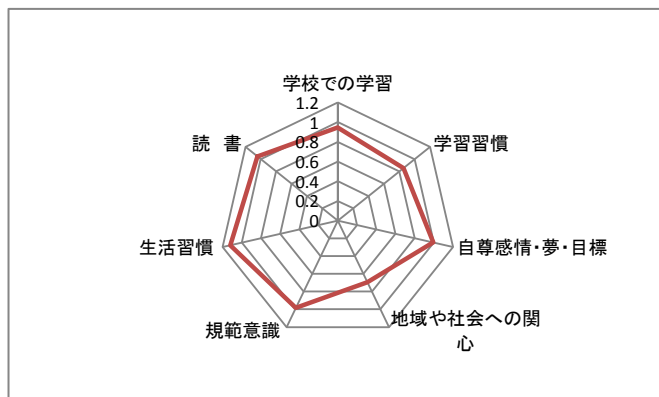
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回ることができた。特に「話すこと、聞くこと」に関する問題は、正答率がかなり高かった。 ・書く力、読む力、言語に関する問題も、正答率は、わずかではあるが、全国平均を上回っている。 	上回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回ることができた。目的や意図に応じて文章全体の構成を考えたり、内容を整理して書いたりする問題の正答率が高かった。 ・物語における登場人物の心情などを捉えることに少し課題が見られる。 	上回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率をわずかに下回っているが、本校の課題である図形の問題は、正答率が高くなっている。 ・算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要があった。 	わずかに下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回ることができた。どの領域も正答率が高く、応用問題に対しても、苦手意識をもたず、しっかりと記述することができた。 	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・読書が好きな児童、携帯電話やゲームなどにあまり時間を費やさない児童、将来の夢や目標をもっている児童の割合が全国平均より高い。生活習慣が良い方向へ変化してきている。
- ・自分で計画を立てて勉強をしたり、予習したり、宿題をしたりといった学習習慣の定着率が全国に比べて低い。
- ・地域行事や地域や社会での出来事に関心がある児童が、全国平均に比べてかなり低い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学年に応じて体験したことや自分の思いや考えを書く活動をさらに積極的に取り入れる。
- 課題解決型で、グラフや図表を活用し、ディスカッションを取り入れた授業を展開する。
- 音楽科の授業で学んだ話合いや共同作業の仕方を他教科にもさらに取り入れるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学年×10分間の家庭学習を定着するようにする。
- 学校通信、学年通信、学級通信を通して、家庭学習への啓発を図る。
- 地域の教育力を積極的に活用するようにまち協などと連携するようにする。